

ウェブ小説の作者と読者の相互作用に関する研究 －感想・レビューの分析から－

箱崎 玲音

本研究では、小説投稿サイトおよびその感想・レビューの調査を通じて、ウェブ小説の作者と読者の関係性における特徴を実証的に研究することを目的としている。

オンライン上で小説の投稿・閲覧がされるようになったのは、1980年代にパソコン通信サービスが展開されてからである。1990年代後半にインターネットが普及したことにより、小説の投稿・閲覧の場がインターネットへと広がった。1999年に携帯IP接続サービスが登場すると携帯電話でも小説の投稿・閲覧が可能になり、2007年には美嘉の『恋空』などケータイ小説の書籍版も相次いで若い女性の間でベストセラーになるなど、社会的にも注目された。近年ではウェブ小説と称される小説の投稿・閲覧が盛んに行われている。大手小説投稿サイト「小説家になろう」に1年間に投稿される作品の数は年々増加しており、2014年に5万件、2018年に10万件を超えたという。ウェブ小説の書籍化やメディアミックスも活発である。2019年現在、同サイトからは3000冊以上もの書籍化された作品が出版されており、アニメ化された作品も15作品以上存在する。2019年上半期オリコン本ランキングのライトノベル作品部門では、伏瀬の『転生したらスライムだった件』を筆頭に上位10作品のうち7作品がウェブで初出した作品であった。TSUTAYA系列の書店ではウェブ小説を書籍版の売り上げが文芸書全体のおよそ半数を占めているという調査もある。

オンライン上の小説についての研究は、これまでケータイ小説を取り扱ったものが成果を上げている。文学的観点、言語学的観点など様々な角度から研究がなされており、ケータイ小説から少女文化を考察する批評もある。インターネットの普及によって起こった作者と読者の関係性、小説の創作プロセスの変化に着目した研究もある。

本研究では、一定の基準を設けた上で活発な活動を展開するウェブ小説の投稿サイト5つを調査対象として選択し、それらを通じた作者と読者の関係のあり方を明らかにすることを試みた。おもに2つの調査から構成される。(1) 小説投稿サイトで活発に投稿・閲覧される作品ジャンルの傾向、ウェブ小説の書籍化の状況、感想・レビューの計量的分析、そして、(2) 感想・レビューについては、ウェブ小説読者による感想・レビューの投稿頻度の分析や、それらの内容における特徴の質的分析をそれぞれ調査した。

調査の結果、ウェブ小説の読者は作品の投稿後ほぼ即時に読んでおり、また、作者は作品についてのフィードバックを即時に受け取るという即時性の状況が具体的に明らかとなる。また、ウェブ小説の読者の関心は主にキャラクターやその動向に向いており、作品の描写に対する関心は相対的に薄いことなども指摘できた。本研究では、こうした調査を踏まえた上で、ウェブ小説の作者と読者の関係性における特徴について考察している。

(指導教員 原 淳之)